

# 面接でのワンポイントアドバイス

## 印象がグッと上がる！ストライクな人材と思われる！

希望する企業に入りたいのであれば、面接官にどれだけ自分の個性や能力を知ってもらえるかが重要です。人が人を採用するのですから、企業側はこの人と一緒に働きたいというストライクな人材を求めています。

面接に進めるということは、採用担当者が「ぜひこの人にも会ってみたい」と思ってくれたからです。書類審査以上に印象を上げるため、以下の教訓を参考に自信を持ってポジティブな気持ちで臨みましょう。

### 第一印象は30秒で勝負

第一印象が決まるのは、ドアを開けてから名前を名乗り、席につくまでの30秒間といわれています。第一印象で「良い」と思った相手に対しては、時間が経過しても「良い」イメージは変わりません。反対に第一印象が「悪い」と、その後も「悪い」イメージが続くといいです。要するに「最初の判断」が決定的となり、それが後々も続きます。第一印象こそが、そのまま面接官の「採用基準」になるともいえます。

第一印象をよくするためには、立派なことを話すことよりも、表情、態度、服装、髪型を美しく見せることです。服装は業界の雰囲気もあるので、多少合わせることは重要です。面接官とは初対面になるわけですので、あいさつと身だしなみはきちんとしましょう。一事が万事、あいさつと身だしなみから全てのことがわかります。経験豊富な面接官は、第一印象で学生のレベルをすぐに判断できてしまいます。

### 質問に的確に答える

日常会話では質問と回答がずれることが多く見受けられます。しかし、面接に及んでは常に質問に対して的確に回答しなければなりません。質問の内容が複雑であったりすると一度で質問の意味を理解できないことがあります。このようなことは誰にでも起こりうることで全くな問題ありませんが、その後の対応が問題です。日常会話でいわゆる「適当な会話」に慣れ親しんでいるせいか、質問の意味を推測して回答してしまう面接志望者が多いのです。

面接官は、意図を持って質問しています。ということは、期待する回答があるのです。それは回答内容というよりもその回答の仕方です。それを意識していれば、的外れな回答は避けられます。

## 百聞は一見に如かず

面接では、人柄、性格、教養など自然に言動に表れる「人格、品性」、「今後の可能性」、そして、その会社への「熱意」が最も重視されます。

学力検査や適性検査、健康診断などで、知的能力、健康状態等は文書によりある程度判断ができますが、人柄・性格・態度・意欲・バイタリティー・今後の可能性などのデータでは判断できない面を深く掘り下げて観察して「人物評価」するには、『その人と面談』するのが最も良い方法です。

面接担当者が「なるほど、納得できる」内容で表現しましょう。面接では20数年間で培われた「自分の個性」を自然体で発揮すればよいのですが、コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を向上させることが大切です。

## 「何か質問はありますか？」と聞かれたらチャンス！

この質問が出たら、積極的に質問をしましょう。「志望している部署の仕事について、詳しく教えてください。」「入社までにさらに勉強をしておくことがあれば教えてください。」など、やる気をアピールできるような質問は、面接官を「おっ」と思わせます。また、自身の今までの経験や自分の長所を述べたうえで、それを生かしていきたいという姿勢も、期待が持て好感度があります。

ただし、労働条件や福利厚生ばかりについての質問は、働く意欲がないと思われるので、避けた方がよいです。下調べした上でどうしても聞きたい場合は、言い方に気をつけて質問を。